

【 熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年記念特集 — 記念式典・祝賀会報告 】

熱測定討論会 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年記念式典・祝賀会

第 50 回記念熱測定討論会実行委員長 中澤 康浩

2014 年 9 月 29 日 (月) 午後 1 時 30 分より、大阪大学豊中キャンパス内の大阪大学会館 (豊中市待兼山町) において、熱測定討論会 50 周年と日本熱測定学会設立 40 周年の記念式典が行われた。式典は 9 月 28 日から 30 日の日程で同大学内の全学教育推進機構棟で開催中の記念討論会の第二日目の午後のプログラムに組み込まれて行われた。討論会参加者全員で半世紀の大きな節目を祝うとともに、これまでの熱測定学会の活動、討論会の活動を振り返りながら将来へ向けて展望をはかる良い機会になった。汗ばむくらいの快晴のなか、200 名に近い参加者と、来賓の方々を迎え盛大に行われた。会場の大阪大学会館は、待兼山の山頂に近い小高い丘の上にたつ豊中キャンパスのシンボルとなっている歴史的な建物である。写真 1 は入り口付近の様子である。

式典のプログラムは二部構成で生まれ、第一部は、記念講演会を中心に進められ、休憩時間をはさみ第二部は記念行事が行われた。



写真 1 会場となった大阪大学会館。
入り口付近には案内のパネルが設置された

【第一部 開会の辞・挨拶・特別講演会・学術講演】

吉田博久 元会長 (熱測定討論会第 50 周年・日本熱測定学会設立 40 周年回記念式典実行委員長) から開会の挨拶があり、ご来賓、列席の皆様、またこれまで学会活動にご尽力いただいた皆様に対してお礼が述べられ、式典の概要が説明された。国内外からのご来賓の紹介の後、式典・討論会の開催場所である大阪大学を代表して理事・副学長の東島 清 先生よりご挨拶があった。熱力学の学問、基礎学術としての強みと、理学研究科の中で熱科学研究を進めるセンターの意味についてもご紹介があった。次いで、熱測定学会の元会長 (1999 年から 2001 年) の徂徠道夫 大阪大学名誉教授から「討論会 50 周年を顧みて」というタイトルで

50 分間の特別講演があった。第 1 回討論会 (大阪大学松下会館) の開催に至るまでの時代背景から、熱測定装置の開発やカロリメトリー、熱分析データの発表や議論の場をつくりたいという設立に関わった先生方の熱い思いと、その意思を受け継ぎ発展させてきた先生方の並々ならぬ努力についてもお話があった。特定の分野や方向、政治的なものに偏ることなくリベラルな雰囲気の中で発展してきたことが現在につながっていることが良くわかる講演であった。



写真 2 吉田博久実行委員長の挨拶



写真 3 徂徠道夫先生による特別講演

次いで、筑波大学大学院 数理工学物質科学研究科の齋藤一弥教授、東京工業大学 理工学研究科の森川淳子教授からそれぞれ 30 分間の学術的な講演があった。熱測定学会で中心的な活躍をされておられる両先生の現在の研究を基礎にして「将来へ向けての熱測定の役割」についてお話を頂いた。齋藤先生は「熱量測定のこれらにむけて」というタイトルで、エントロピーに関する統計力学的な考え方に基礎を

おきながら、それをどのように考えて物質科学にアプローチしてきたか、特に液晶や金属錯体など分子凝集系を舞台に分子レベルでのミクロな自由度の秩序化過程の指標を与えるエントロピーが、いかに物質を分子科学的な視点で見るときに重要であるか説明された。エントロピーという定量的な物性理解のための指標を用いれば、物質科学の世界の本質を見渡すことができ、大胆な切り口で物質に迫ることの大事さを特に若い世代の研究者に強調された。森川先生は、「熱測定のこれから—熱イメージングとその汎用化—」というタイトルで熱分析の今後の方向の一つとして、「ミクロ化とそれを使ったイメージングによる可視化」についてご講演された。赤外線を用いた熱イメージング技術の飛躍的な向上と、そのコンパクト化によるメリット、さらに今後どのような使われ方が要望され、また開発していかなければならないか詳細な資料とともに説明を頂いた。定量化まで含めて、10年後、20年後にむけて若い方が、今後の熱分析が進んでいく具体的なイメージを抱くことができるような講演であった。熱計測技術の技術革新に直接携わってきた森川先生ならではのメッセージであった。

位のご尽力に感謝されていること等が述べられた。特に、創設期にご尽力いただいた先生方に対する謝意と、50年をスタートとしてとらえ今後の益々の学会の発展は、現会員にかかっていることが強調された。



写真6 木村隆良会長の挨拶



写真4 齋藤一弥先生による学術講演

会長挨拶の後、ご来賓の先生方からのメッセージが続いた。日本化学会から川島信之 常務理事が化学会と熱測定学会との関係、熱測定学会の先生方がどのように化学会に貢献してきたかお話があった。社会と化学の関わりが益々求められる中で、物理化学の1つの重要な領域として、熱科学の果たすべき役割と期待についてお話し頂いた。日本熱物性学会の吉田篤正会長から、同じ熱をキーワードとした学際的、分野横断的な学会として1986年から定期的なジョイントミーティングを進め交流を図ってきたこと、今後も双方にとって良きパートナーとして協力して行きたいことなどが述べられた。次いで、熱測定振興会を代表してご参加頂いた、山内 繁先生から祝辞が述べられた。熱力学データベースのMALT (MATERIALS-oriented Little Thermodynamic Database for Personal Computers) 開発の経緯と熱測定学会との関係、これまで歩んできた50年の中でご逝去された多くの方々との関わりについてもお話し頂き、次の50年へ向けてのエールを頂いた。MALTの開発は熱測定学会にとって、大きな学術的な意義があり、山内先生は、横川晴美先生、松本隆史先生と熱測定学会 学会賞を受賞されている。



写真5 森川淳子先生による学術講演

熱測定学会と深い関係のある国際団体の先生方から祝辞を頂いた。国際純正応用化学連合 IUPAC (International Union of Pure and Applied Chemistry) の前会長でありボードメンバーである巽 和行先生 (名古屋大学 物質科学国際研究センター 特任教授) から、日本の熱測定学会が IUPAC の Division I (物理化学・生物物理化学) の活動に大きく寄与していること、故阿竹徹先生が主催された2010年の IUPAC 化学熱力学国際会議 (ICCT) で天皇皇后両陛下にご臨席を賜ったことなどが紹介され、今後も化学熱力学研究を通して新しい概念を創出して欲しいとお言葉を頂いた。熱測定討論会よりも19年長い歴史をもつ北米 Calorimetry Conference から Chair メンバーを代表して Brigham Young 大学の Brain F. Woodfield 教授より、日本の熱測定学会と Calorimetry Conference の関係についてお話があった。日本の研究者の熱科学に関する貢献は大きく、Calorimetry Conference の Huffmann 賞, Christensen 賞, Sunner 賞、さらに若手研究者に贈られる Giaque 賞など多数の日本熱測定学会の会員が受賞していること、故阿竹先生のご尽力で、定期的にハワイでジョイントミーティングを開催している

【第二部 記念行事 祝辞・記念講演・閉会の辞】

第二部は、木村隆良 日本熱測定学会会長の挨拶からスタートした。50周年を迎えられたことに関する感慨と関係各

ことなどが紹介された。中国化学院を代表してご参加頂いた、桂林電子科技大学の Li-Xian Sun 教授からもメッセージを頂いた。急遽、当日にご帰国せざるを得なくなってしまったため、Sun 教授のご夫人である Fen Xu 教授がメッセージを代読された。熱測定学会の先生方と、Wenxing Yang 教授、Riheng Hu 教授、Shiyang Gao 教授らが始めた日中シンポジウムが定期的に続けられており、両国の熱測定、熱科学に大きく寄与していること、今後さらに協力しながら新しい発展を進めていきたいとの内容であった。

熱測定討論会 50 周年・学会設立 40 周年を記念して、海外の熱測定に関わる諸団体からもメッセージを頂いた。IACT (International Association of Chemical Thermodynamics) から Chair の J. P. Martin Trusler 教授、ICTAC (International Confederation for Thermal Analysis and Calorimetry) から会長代理の Ranjit K. Verma 教授から、NATAS (North American Thermal Analysis Society) から President の Brain Grady 教授からであった。時間の関係もあり吉田実行委員長から名前の紹介だけに留め、本文は、本誌に掲載させて頂くこととした。



写真7 菅 宏先生による記念講演
「カロリメトリーの立場から」

式典第二部の後半は、それぞれ異なった立場から熱測定討論会および熱測定学会を牽引されてきた3名の先生方にこれまでの50年と今後の期待などについて10分間程度の記念講演を頂いた。最初に「カロリメトリー」の立場を代表して菅 宏 大阪大学名誉教授(元会長1991年~1993年)が50年の学会の発展について様々な思い出とともにお話された。いつも、新しい分野を取り入れながら今に至っていること、特に学会活動の国際化に大きなエネルギーを注いできた結果、国際的にも認められる現在の組織に発展して来たことをお話し頂いた。次いで、「熱分析の立場から」八田一郎名古屋大学名誉教授(科学技術交流財団, 2001年~2003年会長)から記念講演があった。2012年に近畿大で行われたICTAC会場で復元・展示された本田式熱天秤の紹介から、今日の同時計測、高速加熱、周期変調、各種外的条件制御下へと発展してきた熱分析の装置や手法、学術的な概念の紹介があった。1995年の第31回熱測定討論会で、八田研究室で提案したロゴが学会のシンボルマークとして採択されたことなどが紹介された。熱測定は、今後の地球規模の様々なエネルギー問題にむけても積極的に役割を果たしていく必要があるとお話を頂いた。記念講演の最後は、「企業の立場から」という視点で、東レリサーチセンターの石切山一彦先生からお話があった。企業研究者と熱測定学会の関係、即戦力が必要な企業ではトレーニング

の場として学会が大きく寄与していること、熱測定が物質の評価だけではなく材料の安全性などの面でも重要であることを、実例を交えてお話頂いた。最後に、猿山靖夫前会長(2011年~2013年)から閉会の挨拶があった。これまでの発展を基礎にし、次の50年に向けてより一層の発展にむけて進んで行くことを誓い、閉会となった。



写真8 八田一郎先生による記念講演「熱分析の立場から」



写真9 石切山一彦先生による記念講演「企業の立場から」



写真10 猿山靖夫先生による閉会の辞

【記念式典 祝賀会】

式典の余韻を残す中、会場を千里阪急ホテルに移して、記念祝賀パーティーが行われた。アルバイトの学生さんも含め 143 名の参加者があり、料理、飲み物を楽しみながらあらためて討論会 50 周年と学会設立 40 周年をお祝いした。橋本壽正 元会長（東京工業大学 名誉教授 2005 年～2007 年）から学会の思い出と、関係した先生方のエピソードを交えたご挨拶と篠原厚 大阪大学理学研究科長からのご祝辞を頂いた後、吉田博久 実行委員長の乾杯で懇親会が行われた。呉春や秋鹿といった北摂地区のお酒、箕面の地ビール、大阪名物の串カツなど頂きながら懇談が続いた。祝賀会の途中で、本年名誉会員に推薦された、けいはんな文化協会の高橋克忠先生、リグノセルリサーチの畠山立子先生に討論会、学会での思い出をスピーチ頂いた。高橋先生は、第 1 回討論会のネームプレートを保管されており、懇親会にはそのプレートをつけてご参加された。プレートを覚えておられる先生には、一瞬でも 50 年前にタイムスリップした懐かしい瞬間であったようである。畠山先生は第 40 回の討論会を東京（大妻女子大学）で主催され、その時から 10 年の月日がたっていることをお話しされた。外国人招待研究者を代表して、フランス CNRS Néel 国立研究所の Jean-Luc Garden 博士から国際会議を通じた日本の熱測定学会会員との交流についてお話しがあった。また、第 1 回目の討論会から今まで、ご参加、発表を続けておられる天谷和夫先生からも 50 年の思い出をお話し頂いた。料理がデザートへと進むと、記念式典にあわせて作ったケーキも紹介された。



写真 13 畠山立子先生のスピーチ



写真 14 天谷和夫先生のスピーチ



写真 11 橋本壽正先生による祝賀会ご挨拶



写真 12 名誉会員の表彰を受ける高橋克忠先生

懇親会後半には、第 50 回熱測定討論会の優秀ポスターの表彰式があった。第一日目の奇数番号、第二日目の偶数番号の発表者の中から、それぞれ 1 グループに大阪大学豊中キャンパスがある待兼山の名称にちなんで、「待兼山賞」が発表された。奇数番号からは、首都大学院都市環境の Junhyeok JANG 氏による「非相溶高分子ブレンドの散逸過程で形成するメゾスケール規則構造の形成メカニズム」、偶数番号から広島大学院総合科の平田大輔氏による「温度勾配下における高分子の融解・結晶化」が選ばれ、実行委員長から表彰状と副賞が贈られた。次いで、第 51 回熱測定討論会を開催される東京電機大学の小川英生先生からキャンパスの案内と交通、宿泊等についてご説明があった。

時間の経過が早く、あっという間に予定されていた時間となり、最後に木村隆良会長から挨拶があり、次の 50 年にむけて新しいスタートを誓い参加者全員で一本締めをして閉会となった。



写真 15 祝賀会の会場風景



写真 17 式典会場での記念撮影

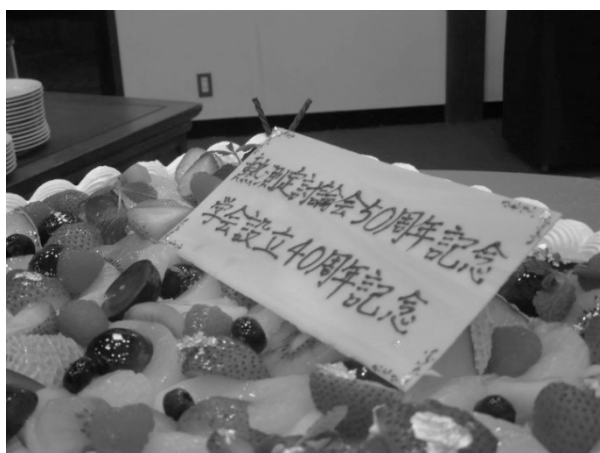


写真 16 祝賀会を記念してつくられたケーキ

式典の開催によって、熱測定討論会、日本熱測定学会の歩んできた 50 年がどのようなものであったか、若い会員にも良くわかったと思われる。本報告で、参加された皆様だけでなく、本誌を購読されている会員各位にもこの雰囲気伝われば幸いである。熱測定を通して繋がる様々な分野の情報交換、連携は次の時代に向けて益々重要になっていることは会員の多くの方も共通の認識であるかと思う。新しい、技術の開発、材料の開発、概念の創成は、次世代の産業、科学を作っていくが、そのすべてを支えているのは熱力学であり、熱測定であるとする。多くの先生方が強調されたように、この式典を、学会が次の時代に向けて良いスタートを切るためのフォイスルとして捉え、精進していきたい。

式典の企画、準備、運営を進めて頂いた吉田博久先生はじめ準備委員会の先生方、討論会実行委員会の皆様、木村隆良会長、猿山靖夫前会長をはじめ幹事会の先生方、ご講演頂いた先生方、ご来賓の皆様にあらためまして御礼申し上げます。